

2018 鈴鹿8時間耐久ロードレース

Result

予選アベレージタイム	グリッド	周回	所用時間	トップ差	ベストタイム	順位
2'11.747	28	188	8:01'11.144	11Laps	2'11.628	23

Setting Data

日付	2018年7月29日 (日)	時間	11:30 ~ 19:30	イベント	2017-2018 FIM 世界耐久選手権 最終戦 第41回 鈴鹿8時間耐久ロードレース	
天気	晴れ時々雨	マシン	GSX-R1000 L8	ライダー	今野由寛 Yoshihiro Konno ジョシュ・ウォーターズ Josh Waters 青木宣篤 Nobuatsu Aoki	
コース	名称	鈴鹿サーキット		気温	°C	
	コンディション	DRY/WET		気圧	hpa	
	路面温度	°C (計測時間)		湿度	%	
エンジン	スパークプラグ	NGK R0373A-10		エンジンOIL		
	ファイナルレシオ	16 x 45 (2.81)		チェーンリンク数	RK 525HRV5	120 リンク
トランスミッション	1st	STD		4th	STD	
	2nd	STD		5th	STD	
	3rd	STD		6th	STD	
フロント	パーツ名	SHOWA(749mm)		TEN	-1 回転	
	スプリング	9.75 N/m		OIL	SNR7	
	トップアウトスプリング	2	N/mm 80 mm	油面	270 mm	
	イニシャル	8 mm		残ストローク	— mm	
	COMP	-1.5 回転		突き出し	15 mm	
リア	パーツ名	SHOWA(316mm)		リンク	STD	
	スプリング	107.8 N/m		リンクロッド	STD mm	
	トップアウトスプリング	100	N/mm 10 mm	車高	mm	
	イニシャル	9.0 mm		ピボット位置	STD mm	
	COMP	-13 段		スイング長	616 mm	
TEN	-12 段		残ストローク	— mm		
タイヤ	フロント			リア		
	銘柄	ブリヂストン		銘柄	ブリヂストン	
	サイズ	120/60R17		サイズ	190/65/17	
エア圧	1.8		エア圧	1.4		
チェック	順位	23 位		ベストラップ	2'10.764 (ジョシュ選手) 2'11.611 (今野選手) 2'12.868 (青木選手)	
	水温	85 °C		油温	°C	
	ガソリン	IN	-		走行距離	188LAP x 5.821Km =1094.3 km
OUT		-		燃費	km/ℓ	

<コメント>

今年の鈴鹿8耐はSSTというクラスに移行し市販車に極めて近い状態での参戦となりました。ノーマルから変更可能なパーツはカウル、マスターシリンダー、ブレーキホース、ブレーキディスク、タイヤ、マフラー、サスペンション(一部)、ECU・・・本当にスタンダードに近いです。昨年は旧型での参戦でしたがこのノーマルの状態で昨年のスーパーバイク仕様よりストレートが速い事に驚きました。

7月に入ってから5日間のテストを経て8耐レースウィークを迎えました。10秒足らずでタイヤ交換できるクイックシステムを使用できない為に、SSTクラスはタイヤ交換に時間を要しますのでタイヤ交換を出来るだけしないのが順位を上げる作戦の一つですが同時にライダーはリスクを負います。台風12号の通過に伴い非常に不安定な中でスタートした第41回スズカ8耐。スタート直前の雨でタイヤ選択に迷いましたが前述したように交換のリスクもありますから、「直ぐに乾く！」と読み、濡れていてもスリックでJoshに行ってもらいました。彼だから出来る作戦でもあります。しかし予想は外れスタート開始30分時点では59位・・・

しかしそこから諦めの悪いチームは一丸となって追い上げます。一時19位までポジションを回復させクラス優勝に手が届く所に！しかしもう一度試練が訪れます。最後のピットイン直前にサイレンサーが破損。レース後の車検で失格になる可能性があるために交換します。真っ赤に焼けたサイレンサー、想像するだけでも熱いです。また膨張したパイプに冷えているサイレンサーを入れるのは至難の業。5分のピットストップで総合23位でチェッカーを受けます。

結果は望むような順位ではありませんでしたが、皆さんが乗られるバイク性能を更に引き上げられる改善点を多く見つけられたのが今回の大きな収穫です。今年の経験を基に来年再びチャレンジしたいと思っています。応援ありがとうございました！

青木宣篤

